

HIC通信



Kids' English Academia (2021年3月13日、ひろしま国際プラザ)

目次

- P2 県内留学生が紹介!「私の国と日本」
- P3 ホルヘさんの日本日記
- P4 事業報告
 - 交流部
 - 留学生生活躍支援センター
- P6 奨学金への協力企業・団体を募集しています
- P7 国際協力をを行う学生団体の紹介
 - 江田島に外国人シェアハウス完成

- P8 コラム
 - Hello Hiroshima
 - イベント・講座案内
 - Upcoming Event News
- P9 研修部トピックス
- P10 日本も元気にする
- P11 JICAレポート
 - こちら JICA デスク

私の国と日本

留学生紹介 シャーマート スワンスターさん

広島女学院大学4年生のシャーマート スワンスターと申します。私はタイのタートパノムから来ました。タートパノムはタイの東北部、田舎で、自然がいっぱいなところです。タートパノムの特徴は古い歴史で、綺麗なワット・プラ・タートパノムというお寺があります。そして、ラオスが近いので、タイ・ラオス友好橋（ミッタバープ橋）でも船でもラオスへ行けます。仏教・自然が好きならぜひ訪ねてみてください。



留学生交流会inみたらい

■ 交通

タイは交通量が多くて、特にバンコクが大渋滞です。そして、都会はバス・電車・タクシーなどがありますが、田舎はバス・電車がなくて、自動車とバイクを運転する人が多いです。私の出身地のタートパノムの交通はほとんどの人がバイクを運転します。もしくは、小型乗合トラック、乗合バン、トукトukk車（タートパノムはタクシーがないです）に乗ります。タートパノムは交通費が安い、交通量が少ないです。メコン川の方は自転車専用道があるので、自転車でメコン川に沿ってゆっくり景色を見ながら伝統的な文化に触ることができます。

■ 食べ物

タイの料理は皆さんよく知っているトムヤンクン、ソムタム（青パパイヤのサラダ）、パッタイ、ガパオ・ライトなどという大人気の料理があります。だいたいのタイの料理は甘い・辛い・酸っぱい味です。タートパノムには東北部の郷土料理「イサーン料理」があります。イサーン料理の代表格「ソムタム（バンコクなどタイ中部のソムタムとは味が違う）」や「ガイヤーン（鶏の炭火焼）」などがあります。イサーン料理は特に、匂いや辛さが中部より強いです。それに、タイ中部や日本のようにご飯をたべるのではなく、もち米（カオニヤオ）を食べます。



ソムタム（青パパイヤのサラダ）

■ お祭り

タイの祭はソンクラーン（水掛け祭り）、ロイクラトン祭りなどが大人気です。それ以外、各地域でタイの伝統的な行事や、タイを体感できるさまざまなイベントがたくさんあります。例えば、ナコンパノム県・タートパノムという私の出身地は光のボートパレード・フェスティバル（ライルアファイ）とタートパノムのお祭りという有名なお祭りがあります。光のボートパレード・フェスティバル（ライルアファイ）は眩い光で飾られた竹製のボートのパレードが行われ

ます。それは、村ごとに独自の形があります。そして、タートパノムのお祭りは各地から何千人の仏教徒が集まり、功德の儀式に参加します（タイと隣国のラオスの両国にとって神聖な場所なので、ラオスの人々もたくさん来ます）。毎年1月と2月の間に9日間開催されます。期間中は朝から晩まで屋台が出ます。

■ 言語・方言

タイの公用語はタイ語です。あとは各地域で方言があります。私の出身地の方言はイサーン語ということです。タイの東北部の人々が使っていますが、同じイサーン語でも地域によって違いがあります。全国の人はタイ語が分かれますが、全ての方言は理解できません。それぞれの方言は魅力があります。

■ 最後に

私は海が好きですが、出身地は山、川はありますが、海がありません。日本に来て、広島に留学する間に日本語・日本文化を勉強しながら、色々な海のある観光地へ行きました。日本に来て、たくさんのことを勉強したり、交流したりすることができて、嬉しいです。これからも、たくさんの活動に参加し、日本のことや異文化をもっと学びたいと思います。



ロイクラトン祭り



ソンクラーン（水掛け祭り）



伝えるHIROSHIMAプロジェクト

ホルヘさんの日本日記

箏の長い旅と 福山が誇る ものづくり



広島県地域政策局国際課
国際交流員
ホルヘ・ロドリゲスさん

メキシコ、タマウリパス州出身。メキシコ国立自治大学で作曲を専攻し、筑波大学で国費留学生の研修プログラムで一年間日本伝統音楽及び民謡を研究した。十三弦箏、山田流に2008年に入门し、裏組を取得。

津軽三味線・民謡、井坂流に2012年に入门し、中殿を取得。現在、井坂流の広島支部に所属。

2018年に広島県国際交流員として広島へ移住し、広島県民と交流の機会などを企画している。

箏との出会い

大学時代に世界の音楽を独学し、日本伝統音楽の様々な種類（淨瑠璃や民謡から雅楽や詩吟まで）が含まれている編集に偶然たどり着いた。その中、箏が使われている長唄や地唄が印象に残り、人間国宝として認定されている琴師範のメキシコに移住した名取講師のもとで勉強し始めた。

今回は、ホルヘさんに「福山箏」について紹介いただきます。

『うぐひすの谷よりいづるこゑなくば 春くることをたれかしらまし』¹

新 春になるとデパートや商店街から、宮殿まで、箏の音色がハレの日を告げて、日常生活の音と混ざっていきます。龍をイメージして作られている箏は、龍の鳴き声を生み出し、龍が空を飛んで、我らの日常を眺める白昼夢をさせてくれます。

新春の代表的な箏曲となった「春の海」も自然の舞から生まれました。ゆかりがある、作曲家・箏奏者の宮城道雄の父親の故郷である鞆の浦に幼少期を過ごしていました。8歳に失明になりましたが、幼いころから見た、鞆の浦の美しい海岸景色が心に残ったおかげで、鞆の浦をモデルとし、「春の海」を作曲したと言われています。



『古代江戸繪集』(巻 - 88)
桜の下で箏や三味線を奏でる様子

中 国から伝來したコトは、奈良時代から1000年以上の間、長い旅をしてきました。初期、琴柱を用いない中国の琴（キン）が来日して、様々な変化を経験しました。琴柱を用い始める、日本の最古楽器とも呼ばれ、雅楽に使われている6弦の和琴から、現在、最も知られている13弦の箏が誕生しました。そして、20世紀になり、箏の仲間が徐々に増えています。宮城道雄の指導で、低音を担当する17弦箏が誕生し、その後、作曲家の三木稔の指導で、現代音楽にも向いて

いる20弦箏（実は弦21本ある）や30弦箏、35弦箏も誕生しました。その仲間にも、宮城道雄が考えた、幻の80弦箏も存在しています。



福山市鞆の浦の歴史民俗資料館にある、宮城道雄先生の像



鳥山石燕の「百鬼夜行」に描かれている箏の妖怪「琴古主」

『世の中にたえてさくらのなかりば 春の心はのどけからまし』²

箏 の旅が続いて、福山まで到着して、福山が「ばらのまち」以外、「箏のまち」としても知られるようになりました。箏の材料である桐の生産地でもない福山が、伝統工芸職人の技のおかげで、全国の箏つくりの7割も占め、日本一大生産地となりました。福山琴が全国に広まりましたが、国内外だけではなく、宇宙まで旅に出ました。小学2年生から箏を習っていた、宇宙飛行士の山崎直子さんの依頼で、福山の箏製造所が小さい箏（本来のサイズの5分の1）を作り、山崎飛行士が、2010年に打ち上げられた国際宇宙ステーションに持っていました。実際に宇宙で演奏してきました。



琴となる桐の木を全て手で掘って彫刻していきます

50年前の昭和時代に、福山で箏つくりが盛んでいました。500人が所属していた製作所もあったそうです。現在5軒だけ生き残り、5人程度で伝統工芸を続けています。「箏つくりがとても楽しい。いいものが出来上がるとその喜びで満足できる」と箏つくりの長い経験を持つ藤井琴製作所の藤井さんが明るく話してくれます。

しかし、現在の労働条件などで、簡単に内弟子が受け入れられない環境になっています。現状に変化がない限り、福山の箏つくり技術が失われてしまう恐れがあります。箏つくりだけではなく、日本全ての伝統工芸の将来も心配だと、自分で作った箏を撫でながら、藤井さんが話します。

*1 吉沢検校が作曲した「春の曲」の前歌として使われている、古今和歌集の大江千里の歌です。「そもそも、うぐいすが谷から出て鳴く声がないならば、春の来ることを誰が知るだろうか」という意味です。

*2 古今和歌集の在原業平の歌です。同じく、「春の曲」の前歌となります。「もしこの世の中に全くさくらというもののがなかったなら、春における人の心はのどかであるだろうに」という意味です。（のどかな季節であるはずの春に、桜が咲くことを待って、散ることで惜しむような落ちつかない気分になってしまいます）

• Activity Report •

交流部

Report 1 第3回グローバルキャリアセミナー(オンライン)を開催しました!

1月16日（土）に、海外での仕事経験がある講師に、ご自身の体験談や仕事について話をしてもらう、「第3回グローバルキャリアセミナー」をオンラインで開催しました。今回は、国際連合世界食糧計画より舛岡 真理氏（イエメン赴任）、認定NPO法人難民を助ける会より穂積 武寛氏（東京事務局）、認定NPO法人国境なき子どもたちより福神 遥氏（パレスチナ赴任）の3名に講師としてお話しいただきました。福神氏については、赴任先であるパレスチナからZoomを繋いでご参加いただきました。

今回は、約70名という多くの方にご参加いただき、大学・学部選びなどの進路や、これまでのキャリアパス、海外で苦労することなどについて、多くの質問が寄せられました。



難民を助ける会 (AAR Japn) 穂積氏

国境なき子どもたち (KnK) 福神氏

国際連合世界食糧計画 (国連WFP) 舛岡氏

参加者の様子

交流部

Report 2 春節を祝う! 餃子づくり交流会

中国の旧正月「春節」を祝うイベントとして、オンライン料理教室を2月7日（日）開催しました。皮から本格的に作る中国式の水餃子ということで、認定NPO法人虹橋の会から講師2名（岩井さん・志茂さん）と、中国出身の留学生2名にお手伝いとしてご協力いただきました。

中国人留学生の謝 金菊（シャ キンギク）さん、と宋 鄭紫依（ソウ テイシイ）さんのお2人には、中国では春節に「年越し餃子」を食べる習慣があることや、春節での過ごし方などをクイズ形式で紹介してもらい、参加者と盛り上がりました。

参加者からは、「日本ではなかなか馴染みがない、春節の過ごし方について知ることができた」「餃子を皮から作るのは初めてだったが、美味しくできてよかったです」などの声をいただきました。協力していただいた皆さま、ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました！



交流部

Report 3 テトを祝う揚げ春巻きづくり交流会

2月9日（火）にオンライン料理教室「テトを祝う揚げ春巻きづくり交流会」を開催しました。テトとはベトナムの旧正月にあたり、一年で最も大切な行事です。ベトナム出身の留学生ヒップさんを講師に招き、友人の斎藤さん、スワガタさんにもお手伝いとしてご協力いただきました。

テトで食べられる揚げ春巻きは、日本でよく見かける春巻きの皮ではなく、ライスペーパーを使います。破れやすいライスペーパーですが、「水に浸すのではなく手で塗るように水をつけて」「巻き寿司のようにすき間なく巻いて」など、ヒップさんの分かりやすく的確なアドバイスのおかげで、参加者の皆さんもとても上手に作っていました。

ヒップさんはもちろん、ハノイからの参加者にもお話を伺い、テトを控えた現地の様子なども知ることができました。講師の方々、そしてご参加いただいた皆さま、ありがとうございました！



交流部



Report 4 雪生活体験2021を開催しました!

毎年大人気の「雪生活体験」イベントですが、今年は、2月27日（土）に、自然の豊かな県北西部の安芸太田町（あきおおたちょう）へ行き、雪あそびや染め物体験を楽しみました。今回は、県内在住の外国人の方、16か国46名にご参加いただきました。

恐羅漢スノーパークでは、コースの一部を貸し切って、そり遊びやスノーシューニューフィールドを楽しめます。午後からは、いこいの村ひろしまで、柿渋染め（かしづぞめ）という染め物の体験をしました。また、加計高校の学生がボランティアで来てくれ、参加者との交流を盛り上げてくれました！元気に楽しそうに過ごす皆さんの姿に、私たちも元気をもらいました。

ご参加いただいた皆さん、ツアーをコーディネートしてくださった「地域商社あきおおた」の皆さん、ご協力いただいた皆さん、どうもありがとうございました！！



エコバッグの柿渋染め体験



参加者みんなで集合写真



恐羅漢スノーパークでの雪遊び

留学生生活躍支援センター



Report 5 留学生交流イベント・鞆の浦ツアーを開催しました!

3月12日、「合同会社ひとむすび」とコラボし、鞆の浦ツアーを開催しました！参加者は、広島県内の留学生27名で、そのうち2名は英語通訳として活躍してくれました。

鞆の浦では、現地のガイドさんに案内をしていただき、町の歴史について話を聞きながら散策しました。また、鞆の浦名産の「保命酒」のお店では、試飲をさせていただきました。昼食後は、鞆の浦から船で仙酔島に渡り、塩づくりを体験しました。グループに分かれて、火にかけた海水をひたすらかき混ぜていくと、水分が蒸発して塩ができるまで。混ぜ方や火加減によって、完成した塩は味も見た目も様々で、参加者はそれぞれ味見していました！あいにくの天気でしたが、とても楽しい時間を過ごしました。

鞆の浦のガイドのみなさん、『ひとむすび』のみなさん、参加してくれた留学生のみなさん、英語通訳をしてくれた王子賢さん・唐嬌嬌さん（共に広島大学の中国人留学生），どうもありがとうございました！



みんなで写真撮影



鞆の浦散策



仙酔島での塩づくり体験

留学生生活躍支援センター

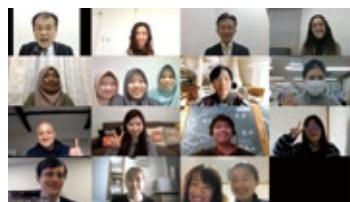


Report 6 「留学生による広島留学動画コンテスト」表彰式(オンライン)を開催

2月26日（金）、「留学生による広島留学動画コンテスト」の表彰式を開催しました。このコンテストは、留学生が「広島に留学したくなる動画」をテーマに、キャンパスライフや日常生活などを題材にし、動画で広島留学の魅力を伝えてもらうものです。3年目となる昨年はコロナ禍という状況ではありましたが、多くの留学生が素敵なお手本を応募してくれました。表彰式では入賞した7作品の表彰と上映を行い、受賞者は受賞の喜びや動画の制作意図を語り、上映される作品を楽しそうに観ていて、オンライン上でも受賞の喜びが伝わってきました。

応募作品は広島県留学生活躍支援センターのYouTubeチャンネルで視聴できますので、是非ご覧ください。

このコンテストは今年度も開催予定です。留学生の皆さん、たくさんのご応募をお待ちしております！



「2020広島留学動画コンテスト」と検索

• Activity Report •

留学生生活支援センター



Report 7 外国人留学生合同企業説明会などを開催しました

3月10日（水）に、広島市留学生会館で就職活動開始セミナー、先輩留学生からのアドバイス講座及び外国人留学生合同企業説明会を開催しました。

まず、就職活動開始セミナーでは、株式会社ディスコの榎川支社長を講師に迎え、選考の流れやエントリーの仕方、面接時のポイント等、日本での就職活動の特徴を説明していただきました。

次の先輩留学生からのアドバイスでは、日本企業で活躍する留学生の先輩二人（中国語；株式会社良和ハウス、ベトナム語；広島日野自動車株式会社）から、それぞれの母国語で自身の就職活動体験記と就職してからの担当職務についてお話をいただきました。母国語で留学生の先輩に質問でき、気軽な雰囲気で就職活動について学ぶことができた様子でした。

そして、合同企業説明会では、企業毎のブースに分かれて、採用担当の方から会社概要や採用情報について説明をしていただきました。留学生の採用に関心のある県内企業18社が出演し、108名の留学生が参加しました。今回の合同企業説明会では、日本語での説明が十分に理解できない留学生のために英語通訳ボランティアも配置しました。コロナ禍で県外から参加される留学生は例年よりも減少しましたが、就職活動を始めたばかりの留学生だけでなく、今春卒業予定の学生や専門学校生にも多数ご参加いただき、熱心に企業の方に質問する留学生の姿が印象的でした。ご出展いただいた企業の皆様、ありがとうございました。



就職活動開始セミナー



先輩留学生からのアドバイス講座（中国語）



先輩留学生のアドバイス講座（ベトナム）



外国人留学生合同企業説明会



外国人留学生合同企業説明会



外国人留学生合同企業説明会



外国人留学生奨学金への寄付を募集しています

当センターでは、企業や県民の皆様からのご寄附を受けて、県内の私費外国人留学生に奨学金を支給しています。（昨年度の実績：44名、渡日等留学生支援に係る奨学金も含めて全体で64名）

外国人留学生の多くは、アルバイトをしながら勉学に励んでいますが、昨年度は、新型コロナウィルス感染拡大の影響により、アルバイトができず、母国の家族からの支援も望めない留学生が増加したため、申込倍率が前年度比の約2倍に跳ね上りました。このような経済的に苦しい状況下にある外国人留学生への温かいご支援をお待ちしております。



- 企業・団体の協力による奨学金 1口 370,000円
- 県民の協力による奨学金 1口 5,000円

※口数の制限はありません。
留学生には月額30,000円を1年間支給致します。

寄付の受付先 公益財団法人ひろしま国際センター TEL : 082-541-3777

※奨学金への寄付金は、寄付金控除の対象になります。



FEST-HIROSHIMA

私たちは「世界から向こう見ずな支援をなくす」という理念のもとフィリピン、セブ島のスラム街で支援を行っています。今年で設立して9年目になり、広島市立大学の学生を中心として2年生10人、1年生9人の計19人で活動を行なっています。

現在は新型コロナウイルスの影響で、支援先に行くことができていませんが、週に2回のミーティングもオンラインでの実施に切り替え、自分たちにできることを模索しながら活動しています。



支援事業部

実際の支援活動に取り組む支援事業部は、スラム街で小さなお店を営む方々に向けて少額のお金を貸すプロジェクトを行う班と、火事を防ぐために消火器を設置する班に分かれており、どちらも現在は現地に住む協力者の住民と連絡を取りながら状況を把握し、問題が起きた際は住民たち自身で解決できるよう、協力体制を整えています。また、様々な支援について自分たちで勉強をしたり、他の国際協力団体の方々にお話を聞いたりもしています。



ファンドレイジング事業部・啓発事業部

団体の資金集めを担うファンドレイジング事業部では、オリジナルのタウン誌を作成し、そこに掲載する広告費をいただくことで資金の獲得に成功し、団体理念の啓発をしている啓発事業部は、今後何十年もかけて確実に理念を達成するために長期的な目標や達成のための道のりについて議論を重ねるなど、新たな挑戦を続けています。

これからも、新たな国際協力団体の活動のかたちを自分たちで創り上げられるよう頑張ります！

●ホームページ

<https://fest-hiroshima.wixsite.com/-ngo>

●インスタグラム

https://www.instagram.com/fest_hiroshima/



ホームページ インスタグラム

かぞく家について



江田島の
外国人シェアハウス

国際交流に取り組もうと思ったきっかけ

2017年から約2年間、私は広島市内のゲストハウス（宿泊施設）で働いていました。そのため、外国人旅行者と接することは身近でした。そんな中、日本には外国人旅行者だけではなく、主にアジア圏から来ている労働者や留学生たちも増加していることを知りました。

私と妻とで本当にやりたいことを考える中、互いに東南アジアが好きだったこともあり、日本に住んでいる外国人に対して何かできることはないか、と考えるようになりました。

そこから日本でできることとして、カンボジアをテーマにしたイベントを開催したり、地域で行われている日本語クラブ（在留外国人に日本語を教える活動）に行ったりしてきました。

そしてもう一歩踏み込んだ取り組みとして、外国人と共に暮らす下宿屋を今春開業します。

江田島に移住した理由

在留外国人たちが集まる居場所や寮のような場所を作りたいと考え、2019年の春先より少しづつ場所探しを始めました。元々広島市内に住んでいたので、なるべく近隣の市町で多くの外国人が住んでいて、なおかつそれが実現できそうな地域を考えた際に、江田島市が候補にあがりました。

様々な地域の方に私たちの計画を聞いていただいたのですが、中でも江田島の方々は熱心に話を聞いてくださり、同時に応援してもらえたような雰囲気を感じました。すでに在留外国人のために動いている人たちに出会えたことも、私たちにとっては大きな出会いとなりました。そういった周囲の人たちに惹かれ、移住を決めました。

ちなみに今となっては、島での暮らしや自然に囲まれた環境、子育ての観点からも、江田島を選んでよかったと思っています。

コンセプト、やりたいこと

コンセプトは、「愛のある場所、みんなのおばあちゃんち」です。全く知らない土地に来て暮らしている人たちが、自分の居場所に帰ってきたような、居心地の良さを感じられるみんなのおばあちゃんちのような場所を目指します。

具体的な事業は、大きく分けて二つあります。

一つ目は、下宿屋です。



日本とは違った文化や価値観の中で育ってきた外国人は、ゴミ出しやキッチンの使い方、宗教のことなど、何気ない暮らしの中にも、「当たり前」が違うことがあります。身边に外国人が増えていることもあります、「それは日本のやり方とは違う。だけど日本語が話せるか分からないし、そもそも話すきっかけも勇気もないし…」と思ったことのある方もいらっしゃるのではないかでしょうか。そんな彼らと私たちが家族のように一緒に暮らすことで、近所の日本人との間に入ることができたり、ちょっとしたすれ違いを解消したり、互いに気持ちよく暮らせるようになるのではないかと考えています。

二つ目は、出張食堂です。

近隣の飲食店の空き時間や定休日を間借りしての飲食業です。近所の日本人と外国人の接点を作ろうとしたとき、「一緒に食卓でご飯を食べること」が心が通うきっかけづくりになると考えています。食事を通じて打ち解けあうことで、地域での身近な交流が生まれ、互いが地域の一員であると認識しあえるようになればと思っています。

展望、将来の夢

世界中に、家族と呼べる人たちをたくさん作りたいです。

私たちの家に来てくれた人たちには、日本での家族として接していくたいと思います。それが安心して暮らし、ごはんを食べる、そういうことを少しづつ積み重ねていきたいです。そしてその先には平和な世界があるのではないか、と考えています。

ここまで書いた通りから、外国人しか対象にしていないように思えたかもしれません、広い意味での地域の人、日本人も外国人もみんなにひらかれた場所にします。まずは一度江田島に遊びに来て、わたくしたちと一緒に食卓を囲みませんか。

「かぞく家」 為政伸彦さん、愛子さん

住所：〒737-2213 広島県江田島市大柿町大原1110-1
E-mail : kazokuya39@gmail.com
Instagram : kazokuya_aico



2021年4月11日オープン
(11日・12日お披露目会)

Hello Hiroshima

Vol.112 April 2021



Hello Hiroshima! Aya here. Happy spring!!

Aya

(Hiroshima Prefectural Coordinator
for International Relations)

I realized that I have been writing articles for this newsletter for about a year and a half now, so I figured that it was about time to properly introduce where I'm from. For those of you who do not know, I was born in Tokyo, but raised in San Francisco (SF), home to the famous Golden Gate Bridge, in Northern California!

I think one common misconception about California, is that the state is just one huge stretched out LA. But LA is just one small part of it, and California is almost the same size as Japan, if that gives you an idea of how large it is.

Northern California is very different, in terms of its culture, climate, terrain etc. It is not always hot and does not have Malibu-like aquamarine warm water; if you jump into the ocean by SF, you will soon regret it (it's very cold!!). San Francisco is right on the bay and the Pacific Ocean, so it gets nice and breezy, and is super temperate. But some people complain because it means there are barely any seasons. Snow? Autumn leaves? Blazing hot summer days? I don't know her!

I feel like another stereotype about my home state, is that Californians are all blond tan surfer dudes with a puka shell necklace, who say "duuuuude" on a daily basis.

While I can attest that there are indeed many of those people (to all the Brads and Chads, I'm looking at you), it is actually a hugely diverse state, with the highest percentage of state residents being Latino at 39%, then 37% Caucasian, 15% Asian American, 6% African American, etc. Walking through San Francisco you can see yourself walk through different old immigrant enclaves and neighborhoods; the languages

spoken around you, what characters are written on storefronts, the food being sold around you, etc.

So ironically when people ask me what I want to eat first when I get back, rather than a hamburger or pizza, what I always reply is tacos from my favorite neighborhood taco truck, or pad see ew from my favorite Thai restaurant in Berkeley.

So personally, the most Bay Area thing for me would be walking in a crowd where everyone looks different, are speaking in different languages, but all somehow fitting in.

Of course, I do not mean to paint some utopian multicultural paradise that is entirely integrated and has no racial tension or inequality; that would be totally misleading and dishonest. The Bay Area, for how liberal it may appear, is not immune from the racial tensions and inequality that plagues the rest of the country.

And my experience as a Californian is one as a Japanese American living in the SF Bay Area, so I'm sure my experience would sound foreign to many other Californians. But that's also part of the point! We are all so different.

This segment is short so I only touched on my home city, but once international travel opens back up again, go take a look for yourself! And if you see me on the street, shout and give me a wave.



Upcoming

E v e n t N e w s



広島県ユニセフ協会設立15周年記念 「ユニセフパネル展」

いま地球で起こっていることが私たちの暮らしとどのように繋がっているかを伝える「もったいないばあさんのワールドレポート展」、子どもたちを病気から守るワクチンを届ける様子をユニセフの長谷部誠大使が伝える「ワクチンの旅」を展示します。

日 4月3日(土)~8日(木) 時 10:00~17:00(3日は11:00~、8日は15:00まで)
場合 人社ウエンディーひと・まちプラザ 北棟4階ギャラリーA 費 無料
定なし ご来場の際はマスク着用をお願いします。検温、手指の消毒、
間隔を空けてご覧いただくなど、新型コロナウイルス感染拡大予防にご協力お願いします。

問 広島県ユニセフ協会 担当者：高田 和美 Tel：082-231-8855
mail : unicef-hiroshima_06@theia.ocn.ne.jp

広島県ユニセフ協会設立15周年記念オンライン講演会

講師：下村 靖樹さん

20回以上アフリカを訪問し、ソマリア内戦、ルワンダ内戦、ウガンダ子ども兵士、エボラ出血熱などを取材した下村靖樹さんにお話を伺います。また、当協会の15年の歩みもご紹介します。

日 5月22日(土) 時 13:30~15:30 定 100人 費 無料
場 Zoomを利用します

問 広島県ユニセフ協会 担当者：高田 和美 Tel：082-231-8855
mail : unicef-hiroshima_06@theia.ocn.ne.jp

Hiroshima International Center TOPICS

研修部トピックス

【東広島市からの受託事業】 その1 Kids' English Academia

「Kids' English Academia」は、ひろしま国際プラザを英語圏の小学校に見立て、小学生が半日間の留学体験ができるイベントです。活動中は英語のみ！先生役は、県内のALT（外国語指導助手）や、ひろしま国際プラザに滞在している留学生が協力してくれました。新型コロナウイルスの感染拡大により、急遽開催中止となつた昨年度でしたが、今年度は人数制限や事前予約制などの万全のコロナ対策を施して、3月13日、無事開催することができました。参加者は、4グループに分かれて4つの教科を体験します。

「理科」では、先生と一緒に様々なおもしろ実験を行いました。「象の歯磨き粉」は、最も子どもたちの目を引き付けた実験です！薬品を混ぜ合わせると、水色の泡がチューブから出てくる歯磨き粉のようにペットボトルからあふれ出しました。「体育」は、ピッチングゲーム。的に当たら、先生のミッ



ハードなミッションをクリア！

その2 ひな人形飾り

2月9日、ひろしま国際プラザに滞在する留学生や外国人親子と一緒に、ひな人形の飾り付けをしました。参加者は、ひな人形の由来や平安時代の結婚式の風習などについて説明を聞きながら飾っていました。人形や小物などを手に取り、「かわいい！」「値段はいくら？」などの声も聞こえてきました。

(イベントの様子はFacebookに掲載しています。「ひろしま国際プラザ」で検索してください。)



籠もお姫様の嫁入りの道具の一つです

前号に引き続き、ひろしま国際センター研修部で実施したプログラム・取組みをご紹介します。プログラムの実施においては、新型コロナウイルス感染拡大防止策を適切に講じています。



「象の歯磨き粉」は、次から次に泡がムクムクと

ションに従って馬跳びや腕立て伏せ、クマ歩き（四つん這い歩き）など、みんなで体を動かしました。そのほか「美術」ではオーストラリア先住民の点描画アボリジナルアートを完成。「算数」では、数字カードを使って足し算ゲームを行いました。

どの教室からも子どもたちの歓声が聞こえ、HICは笑顔と英語に包まれた「学校」になりました。



みんなの健康を願って！



“HICワールドクッキング Online” ぜひご覧ください！

研修部実施の異文化交流事業「ワールドクッキング Online」では、世界各国の料理をご紹介しています。

第2回目は、インドからの留学生 デュティさんによる、インド・ビーフカレーです。

第3回目は、中国からの留学生 王さんによる、春節にちなんだ水餃子です。

レシピや手順を日本語でご紹介しています。ぜひご覧ください（視聴無料です）！

Facebookから「ひろしま国際プラザ」で検索してください(^^♪



日本も元気にする



「世界を元気にする」これはJICA海外協力隊のシゴトです。でも実は、もう一つ大事なシゴトがあります。それは、
「日本も元気にする」隊員には、海外での経験を日本、とりわけ自分の住む地域に還元するというシゴトもあるんです。

氏名 / 派遣国 / 職種 / 派遣期間

コロナ禍で一時帰国を余儀なくされた
この1年をどう過ごしてきたか

瀬下 岳

ザンビア /
小学校教育 /
2019年度2次隊

コロナ禍で一時帰国を余儀なくされたこの1年、思いは大きく移り変わり、ようやく長かった帰国後の1年が終わろうとしています。コロナがなかったら、2年間、ザンビアの小学校で、算数を教えたり、所属する大学院の研究の調査をじっくりしたいと思っておりましたが、それは叶わず、わずか3か月の滞在での帰国となりました。一時帰国からの1年間、私は大学院の研究に没頭していました。帰国日当日になんとかとれた調査のデータを基に、分析し修士論文を書き上げました。修士論文のタイトルは、『ザンビア小学生の小数概念の習得段階に関する研究』です。現在、所属している広島大学大学院国際協力研究科（現 人間社会科学研究科）の「ザンビア特別教育プログラム」は、ザンビアJICA海外協力隊として、算数・数学や理科を教えながら、大学院で修士号を取得するプログラムであり、理論と実践を学べるところに魅力を感じ入学しました。ザンビアの算数・数学教育が少しでも良くなるればと思い、活動も研究も頑張ろうと思っていた矢先の緊急帰国だったので、正直ショックは大きく、

帰国後、昨年の4月5月位は、ネガティブな気持ちになることが多く、後ろ向きになる自分がおりました。研究に必要な物以外の私物は、全てザンビアの自宅（教員住宅）に置いて來たので、気持ちもザンビアに取り残された気分でした。しかし、気持ちを切り替え、帰国当日なんとかとれた調査データを基に自分の研究で少しでもザンビアの教育が向上するよう頑張りたいという気持ち一身でなんとか論文を書き上げることが出来ました。今は、4月からの就職が小学校教員に決まっているので、このザンビアでの経験を日本の小学生に少しでも還元出来ればと希望をもっています。コロナが収束したら、もう一度ザンビアの教育に再チャレンジしてみたいと思っています。

遠く離れた国、アフリカのザンビアの配属校の校長先生からは、帰国後1年経った今でもSNSを通じて連絡がきます。せっかく出来た、ザンビアとの縁を今後も大事にし、ザンビアや日本両国の教育が少しでも良くなることを目標に、これからも色々な活動を頑張ろうと考えています。最後に、お世話になったザンビアのみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。ザンビアに滞在出来たのは短い期間でしたが、ありがとうございました。そして今後ともよろしくお願いします。



現在、各国の状況を慎重に判断したうえで、少しづつではありますが、隊員の渡航再開が進んでおり、渡航の目途が立っている隊員に広島県から派遣される予定の隊員が含まれはじめています。それぞれの渡航先でも、多くの困難が待ち受けていることが予想されますが、隊員の持つ自主性、協調性を活かして現地の人とともに活動を進めていく姿が目に浮かびます。積極的に現地の隊員の様子を発信していくよう、デスクも協力していきます。

広島県 JICA デスク 国際協力推進員 羽立 大介(はだて だいすけ)

お問い合わせ

TEL : 082-242-8879

E-mail : jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp



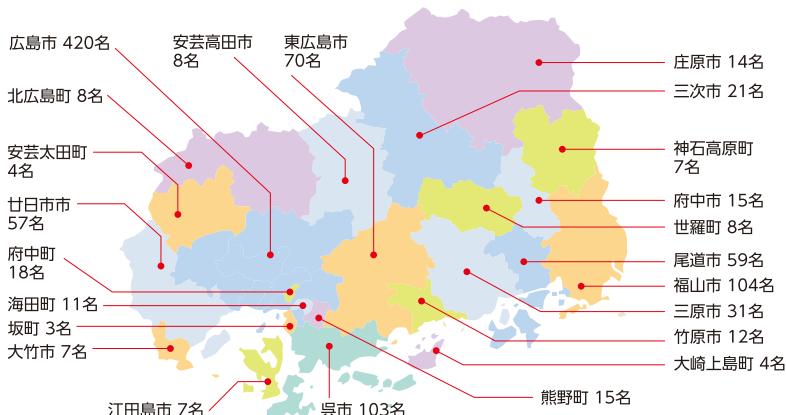
こちらJICAデスク



広島から世界へ! いつか世界を変える力になる!

これまで1,006名の広島県出身の隊員が世界で活躍しています!

*新型コロナウイルスの影響で日本に帰国した隊員は再派遣に向けて待機中です。(2021年2月末現在)



■これまで派遣された広島県出身JICA海外協力隊(名)

区分	合計
青年海外協力隊／海外協力隊	875
シニア海外協力隊	91
日系社会青年海外協力隊／日系社会海外協力隊	30
日系社会シニア海外協力隊	10
※短期ボランティア含まず	
	2021年2月28日時点

<JICA海外協力隊>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい!」という強い意欲を持つ20歳~69歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティア事業です。派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、同じ目線で途上国の課題解決に取り組みます。また、帰国後も現地での経験を日本の地域や世界の発展に役立てることが期待されています。そんな草の根レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか?



帰国隊員レポート

～東ティモール民主共和国～

職種：番組制作 上米良 貴博さん



東ティモール民主共和国

東南アジアにある民主共和制国家。2002年5月独立回復。

概要 面積: 14,900平方キロメートル
人口: 126.1万人(推定値)
首都: ディリ
言語: テトゥン語・ポルトガル語
宗教: キリスト教(99.1%)・イスラム教(0.79%)

現地での活動内容

東ティモール民主共和国(以下、東ティモール)の国営放送局『Rádio e Televisão de Timor-Leste』で、現地職員の技術力向上と、番組の質向上に向けた活動を行っていました。私は番組制作における技術系(カメラ撮影や編集等)が得意分野だったので、放送技術向上に向けた勉強会の開催や、番組収録に同行し、カメラや照明、演者の立ち位置を指示し、なぜこの位置なのか理由を交えながらの指導をしていました。また、番組の質を決定する編集作業では、丁寧な音の編集に重きをおいて指導しました。その理由としては音が急に大きくなったり小さくなったりしてしまっては、聞き取りづらく、視聴者からすれば、ただの雑音になり、情報が伝わらないためです。また、私が去ったあとでも技術が引き継がれるように、現地語での機材管理シートや取扱説明書を作成しました。



▲現地スタッフ向け講習
▲収録中の指導風景
▲東ティモール大統領との写真

東ティモール民主共和国ってこんなところ!

東ティモールは、日本の南およそ5,000kmの所にあり、時差はありません。気候は熱帯モンスーンで雨季と乾季があり、雨季は山々の緑、乾季は海の青さが映えます。ほとんど開発がされていない手付かずの自然が多く存在していて、地域によっては野生のワニがあります。公用語は「テトゥン語」と「ポルトガル語」、地方に行くとローカル言語が幾つもあり、多種多様な言語が存在します。東ティモール人は、穏やかな性格の人が多く、とても家族を大切にします。家族が病気になったら仕事を休むというの普通です。特産品はコーヒーで、東ティモール人はコーヒーをよく飲みます。しかし、コーヒーの苦みを味わうことはなく、たっぷりの砂糖を入れて飲むのが東ティモール流です。



帰国して

私は、2018年7月に日本へ帰国しました。帰国後も国際協力に携わりたいと思い、現在は、JICAで勤務しています。

2020年3月、新型コロナウイルスの影響により、世界へ派遣されていたおよそ2,000名のボランティア隊員が日本へ帰国しました。現在では、医療体制や感染状況等を踏まえた上で、数カ国への再派遣が実施されています。しかし、再派遣されることなく志半ばで任期を終えた隊員もいます。JICA中国では、彼らの思いを、派遣国で一緒に暮らした人たちへ届けるため、また、派遣国との繋がりを保つために、帰国隊員から有志を募り、派遣国へのビデオメッセージを制作しました。ビデオの内容は、隊員からの任国へのメッセージと隊員のふるさと(日本)の紹介となっています。現在は、JICA中国のYouTubeチャンネルで公開していますので、ぜひご覧ください。

JICA中国YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/user/jicachugoku>

上米良 貴博さんプロフィール

・長崎県佐世保市出身。
・地元のケーブルテレビ局に勤務。放送技術者として、番組制作に従事。2016年に、青年海外協力隊番組制作隊員として2年間派遣される。2018年帰国。帰国後も国際協力に携わりたいと思い、JICAで勤務。

参加のきっかけ

放送の仕事柄、青年海外協力隊の取材をよくしていました。ある取材の時に、JICA職員の方から「番組制作のボランティアもありますよ。」と言われ、私でもできるボランティアがあると興味を持ちました。40歳を前に、自分の人生を振り返り、人のため、世の中のために何かしたいと思い一念発起して協力隊へ参加しました。

参加して思うこと

文化や歴史が異なる世界で過ごした経験は、私を大きく育ってくれた時間となりました。世界の見方は一方だけではなく、多角的な見方が必要だと身を以って学ぶことができ、今後の人生において貴重な経験となりました。

「グローバルリレーションズ・プログラム(GRP)」参加者の声

HIC article: Jeffrey Rivera Galinoさん (Manila, Philippines)

I am Jeffrey from the Philippines. I am a Teacher Trainee on Technology Education at Hiroshima University. At the present, I stay at Hiroshima International Plaza (HIP) as a member of the Global Relations Program (GRP).

When I first heard about the GRP from people, I know who lived in HIP, it excited me. I usually enjoy participating in cultural exchange activities, meeting locals and people from all over the world. While I often sign up to activities hosted by Hiroshima International Center and International Exchange Events at Hiroshima University, it felt like I want to do more. So, when the opportunity to become a member of GRP became available, I took it.

But things did not go as expected. With the emergence of the global pandemic, most activities were canceled. While it was unfortunate that I did not get what I originally wanted, HIP became the haven to stay while still being connected. With its superb facilities and endearing staff, HIP offered the best place for self-improvement while in isolation.

As the months pass by, I explored various facilities to keep me engaged. The music and entertainment room allowed me to learn to play new musical instruments. In the same room, I watched Japanese movies to keep my ear to the Japanese language. The study room is an excellent place to study with its quiet ambiance and fast internet connection.

The library is my gateway into learning more about Japanese culture. It always has updated displays of Japanese traditional events, free travel books and brochures of exciting places in Japan, new books on Japanese culture, and a comprehensive collection of Manga and Japanese films. The gymnasium allowed me to take care of my physical wellbeing by practicing basketball and lifting weights at very convenient times. The cooking room, with its wide-ranging equipment, allowed me to harness my cooking skills and try preparing new cuisines. When the restaurant Racolto was still open, it enabled me to try cuisines from all over the world at a very inexpensive price. With all of my classes held online, individual rooms provided very conducive learning conditions.

Monthly updates from Okamoto-san and Takei-san kept us up-to-date on things happening in the prefecture and in Japan. HIP staff is very helpful and understanding in every concern that we have. The free masks ease the burden of protecting ourselves and others. Indeed, being in HIP is like experiencing Japanese hospitality at its finest. I hope that someday, in one way or another, I can give back. I always believe people are always where they are supposed to be. And in this time when people need to self-isolate, I am in the right place.



グローバルリレーションズ・
プログラム(GRP)とは?

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的にした、外国人留学生のためのプログラムです。現在、8ヶ国19人の留学生が参加しています。

そのほか、レジデントアシスタントの日本人男子学生1名が入居し、彼らを支援しています。(日本人女子学生1名募集中!)

- ★入居使用料
1泊800円 管理費2,550円／月
月額24,950円～27,350円(水道光熱費込み)
- ★毎年、春と秋に入居者を募集しています。詳しくは「ひろしま国際プラザ」のHPをご覧ください。

「県内文化施設優待カード(HiCisメンバーズカード)」を発行しています。

このカードは、県内留学生を対象に発行し、広島県内の文化施設（美術館、博物館など）67施設の入場料が無料（一部施設は割引）になったり、広島県留生活躍支援センター（HiCis）のイベント情報がメールマガジンで配信される、とてもお得なカードです。

申込は、留学生本人がオンラインフォーム（<https://bit.ly/2TAFCSn>）から申し込んでください。（学校でまとめて申し込むところもあります。）
カードは、大学等を通じてお渡しします。



交流部&留生活躍支援センター

〒730-0037
広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001
E-mail／hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

月～金 10:00～19:00 土 9:30～18:00
日・祝日および年末年始(12/28～1/4)はお休みです。



研修部(ひろしま国際プラザ)

〒739-0046
東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751
E-mail／hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

[情報センター・図書室]
月～金 10:30～12:30, 13:30～19:00
(12:30～13:30閉室)
土・祝日 10:30～19:00

- ※日曜および年末年始(12/29～1/3)はお休みです。
- ※その他、臨時休室の場合は、HPで随時お知らせします。
- ※NGO交流室は休室中です。

